

聖書日課 『からし種』 2023.11.5－11.12

<p>11月5日 (日)  ヨブ記 33章</p>	<p>「まことに神はこのようになさる。人間のために、二度でも三度でも／その魂を滅亡から呼び戻し／命の光に輝かせてくださる」(29－30節)。四人目の友人エリフの言葉は「正しい」。ただエリフに「決定的に欠けている」ものがある。それは不条理の苦難にもだえている者の傍らを共に歩む祈り。主イエスはその祈りを携え、私たちの間を生きてくださった。</p>
<p>6日 (月)  ヨブ記 34章</p>	<p>「その時、弱い者の叫びは神に届き／貧しい者の叫びは聞かれる」(28節)。神の慈しみと正しさがはっきり示される「その時」を私たち人間は知らない。けれども十字架の主は「その時」が、私たちの間にすでに実現していることを示してください。今日「弱い者」「貧しい者」の叫びが確かに聴かれていることを十字架の主において信じ、従うことができるように。</p>
<p>7日 (火)  ヨブ記 35章</p>	<p>「あなたは神を見ることができないと言うが／あなたの訴えは御前にある。あなたは神を待つべきなのだ」(14節)。神を信じることは「待つこと」である。マルタとマリアは愛する弟の死において「主の御業を待つ信仰」を学んだ。主は必ず来てくださる。不条理の悲しみに立ち尽くす者たちの間に。今日も「主よ、あなたの慈しみを教えてください」と祈って始めたい。</p>
<p>8日 (水)  ヨブ記 36章</p>	<p>「まことに神は力強く、たゆむことなく／力強く、知恵に満ちておられる」(5節)。神の力強さと知恵の深さは、私たちが目を大きくして感嘆するような出来事だけでなく、私たちがなかなか気づかずにいる「小さく弱々しい出来事」の中にも込められている。今日、主の慈しみの御業を「見あやまたず」に告白していく信仰をいただいきたい。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.11.5－11.12

<p>9日 (木)</p> <p>ヨブ記 37章</p>	<p>「神は驚くべき御声をとどろかせ／わたしたちの知りえない／大きな業を成し遂げられる」(5節)。神のご計画は、私たちの思いや理解をはるかに超えている。主イエスの母マリアは、その神の「大きな業」を賛美する者とされた。私たちには「不思議」としか思えないことも、「神さまが語られたことならば！」と受けとめ、思い巡らしていく信仰をいただきたい。</p>
<p>10日 (金)</p> <p>ヨブ記 38章</p>	<p>「わたしが大地を据えたとき／お前はどこにいたのか」(4節)、「そのとき、夜明けの星はこぞって喜び歌い／神の子らは皆、喜びの声をあげた」(7節)。かつて富士山山頂から朝陽が昇るのを見た時、その荘厳さに息をのんだ。「はじめに神は天地を創造された」。ある人々は「ご来光」に手を合わせ拝むが、私たちはすべてを創造された主に賛美をささげる。</p>
<p>11日 (土)</p> <p>ヨブ記 39章</p>	<p>「お前は岩場の山羊が子を産む時を知っているか。雌鹿の産みの苦しみを見守ることができるか」(1節)。神の慈しみのまなざしは、この地上を生きる者たちの命の育みにやさしく注がれている。「産みの苦しみ」、それは命を育む母体が引き受ける苦しみとリスクでもある。今日、小さな命を育むために苦しみを引き受けている者たちに、神の助けと支えがあるように。</p>
<p>12日 (日)</p> <p>ヨブ記 40章</p>	<p>「わたしは軽々しくものを申しました。どうしてあなたに反論などできましょう。わたしはこの口に手を置きます」(4節)。ヨブは無垢な人です。「主の御声を聞くこと」を切に望みました。ですから「あなたの言葉を聞く」と、み前にへりくだり、謙遜にひれ伏しました。ヨブのように「わたしに罪は無い」とは言えない私たちに伴ってくださるイエス様の恵みに感謝します。</p>